

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200818		
法人名	社会福祉法人 恵愛会		
事業所名	グループホーム めぐみ	ユニット名	1階
所在地	宮崎県都城市太郎坊町563-2		
自己評価作成日	平成30年7月4日	評価結果市町村受理日	平成30年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4570200818-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4570200818-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年8月2日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に組み込んでいる「安心安全、温かい暮らし、笑顔での生活」「出来ることに着目し生き活きとした生活」を提供する為にも、職員は常に感受性「気づく力」を磨いています。地域に根差した開かれた施設作りについても実習生を積極的に受け入れ、地域の夏祭りへの参加、毎月「歌唱教室」「書道教室」「ダンベル体操」と行事の一環として外部より講師を招き取り組んでいます。また、年間行事も多数計画しており、四季の移り変わりを肌で感じていただけるよう努めています。また、併設の特別養護老人ホーム・デイサービス・ケアハウス等との交流も行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の状態に応じた言葉かけやペースに合わせたケアを行い、利用者の気持ちに寄り添ったケアで症状を緩和させ、穏やかに暮らせるように支援している。また、法人の関連施設との交流や地域住民、地域の社会資源に対してもオープンな運営を行い、双方向の関係づくりが利用者の喜びとなるよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、毎朝唱和・確認を行いケアを行っています。		全職員で理念の見直しを行い、今年から新しい理念を実践し、常に居心地よく過ごせるように利用者の気持ちに即したケアに努めている。理念とは別に今年1年の目標を定め、より具体的なケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の行事「歌唱教室」「書道教室」「ダンベル体操」の他、地元の夏祭りに参加し交流を図っています。		利用者は、地域の社会資源や地域の行事・法人の関連施設等の行事に参加し、交流を深めている。また、ホームの職員等も自主的に、地域活動として清掃や住民との関りを積極的に行うよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症についての勉強会、自施設での生活の中で認知症の対応の仕方・工夫している事等を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、委員の方達とは率直な意見交換が来ています。委員からの意見・相談事項は職員会議・処遇会を通してサービスの質の向上に生かしています。		会議では、取組内容や具体的な改善課題を話し合い、また地域が抱えている問題や介護、認知症について意見・情報交換を行っている。会議内容は朝の引継ぎ時等で職員に伝達され、出された意見を運営に生かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度相談・報告・指導を頂きながら課題解決を目指した協力関係を築いています。		市の担当者と日頃から連絡を密にし、運営会議でも事業所の実情、ケアサービスの取組を伝えながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室の施錠、身体拘束は行っていない。定期的に勉強会を行い、身体拘束の及ぼす弊害について理解を深めている。		毎年、外部の研修会に参加し、職員会議等で身体拘束の内容とその弊害を認識し、勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、虐待防止に努めている。また、入居者の状態・職員の動向については職員間でお互いに十分注意を払い防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し理解を深め、活用できるように取り組んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い納得・ご理解して頂いている。改定時にはその都度、書面での説明を行いご理解、同意を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に各職員声掛けを行い気軽に意見を言える・聞ける雰囲気作りに努めている。意見については職員間で共有し運営に反映している。	常に利用者の状態の報告や連絡を行い、意見等を積極的に聴き、要望には速やかに対応している。また、家族から出された意見等を話し合い、具現化していくように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議の他、毎日の処遇会、個別での面談を行い職員の意見を聴き反映させている。	代表者、管理者は、朝礼や会議、個人面談の際に、職員から運営や管理についての声を聞く機会を設け、勤務体制や異動の配慮をし、職員の気づきやアイデアを運営に取り入れるよう努めている。。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り職場環境の改善に努めている。職員のモチベーションの維持・向上を図る為密にコミュニケーション、個別での面談を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修・職員会議での勉強会の他、外部への研修も積極的に参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入しており、定期的な勉強会に参加し意見交換・交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族から要望、不安な事をしっかり聴き信頼関係を築いた上で安心して入居できるよう配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族から要望、不安な事をしっかり聴き信頼関係を築いた上で安心して入居できるよう配慮している。本人、家族の意向はプランに反映させている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合い(相談)の中で求めている事を見極め必要とされるサービスの提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で職員と利用者が一緒に取り組む時間、姿勢を大切にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊等いつでも出来る環境を作り、家族との繋がりを大切にしている。また、行事等への参加の声掛けも積極的に行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に本人・家族に馴染みの場所を聴き、出向いたりしている。地域の夏祭りには毎年参加している。	病院受診時に、利用者の自宅近くに立ち寄り、関係づくりを維持継続する支援や、法人の関連施設の馴染みの人達とのふれ合い、冠婚葬祭時の付き添い支援などに取り組んでいる。。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係把握は日々行っており、トラブル防止を図り、入居者同士の穏やかな時間を大切にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談・支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位・満足度の向上を念頭に置き本人の意思を尊重した考え方をを行うよう努めている。		思い出話から利用者の趣味や特技を再現し、笑顔を引き出す努力等をしているが、日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等の情報の蓄積の記録が生かされていない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集の他、入所後も本人・家族から情報収集を行い、サービスの質の向上に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、毎朝の処遇会で一人ひとりの状態確認、情報の共有を図っている。また、個々の申し送りノートを作成しており状態把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の他、心身の状態の変化や要望のあった際はその都度見直しを行っている。		利用者、家族の意向を確認し、職員や関係者の意見を反映した介護計画を作成している。毎月のモニタリングを行い、見直しは状況に応じて随時行うよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人ひとりの記録を記入し職員間で情報の共有を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々の状態・ニーズに応じて柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り入居者個々に応じた地域資源の活用に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居者・家族の意向で決定して頂いている。医療機関とは密に連絡・相談を行い関係を築きながら支援を行っている。	家族の付き添いで本人や家族が希望する医療機関を受診でき、状況によっては職員も同行しそこで得た情報を共有することによって、より適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所の看護師と密に連絡・相談を行い連携が図れている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とご家族の橋渡しを行い、家族に代わって医療機関と密に連絡をとり、関係作り・ケアの方針を話し合い早期退院に向け連携を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・医療機関と連携しケアの方針を決定しチームとして支援している。	ホームでできることを利用者、家族に伝え、方針を共有している。本人や家族の意向を踏まえ、医療体制を十分に整えて連携し、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修、反復学習を行う事で実践力が身に着く様行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の他、GH単独での防災についての勉強会を行っている。(消火器の使用方法・設置場所)避難経路図も見やすい場所に掲示。年に1回は地域の方にも訓練に参加して頂いている。	年1回消防署立会いの下、法人の関連施設と合同で地域住民も参加し、夜間想定 of 災害訓練を実施している。定期的に訓練や勉強会を行い、消火器や避難路の確保や非常食料、備品を準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	確認事項でも載せている「人生の先輩」という尊敬の気持ちを常に持ち、またお客様であるという意識も常に持ち言葉かけを行っている。プライバシー保護にも努めている。		居心地のいい生活を支援し、利用者の気持ちに寄り添ったケアを行うよう努めている。全職員で誇りやプライバシー確保について確認し合い、目立たずさりげない言葉かけや対応を行うよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の想いを尊重し、自己決定できるよう支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で利用者の方達を注意深く観察し、個々のペースに合わせた支援を提供するよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を準備し、本人に決定して頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日おやつ時間は一緒にお茶を飲み、毎週一回入居者の方と一緒に昼食作りを行っている。おやつ作りも一緒に行い楽しんで頂いている。配膳・下膳は出来る方に関してはご自分でして頂いている。		毎週1回、ホームで利用者と一緒に昼食を作り、食事一連の作業を利用者とともにやり、一緒に味わいながら、介助したり、楽しく食事ができるように雰囲気づくりを大切にしたい支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量・水分摂取量はチェックし把握に努めている。食事形態についても、随時検討し管理栄養士と連携を図り対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。出来る方はご自分で歯磨きをして頂き、不十分な箇所は職員で補助し口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を作成しており、排泄サイクルの把握に努めている。日中はトイレでの排泄に努めている。		排せつチェック表を活用した取組で、布パンツ使用の利用者が多く、おむつ対応の利用者も日中はトイレ誘導を行い、自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分補強・腹部マッサージを行い便秘予防に努めている。状態に応じて医療機関に相談し下剤の調整を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日・時間は設定してあるが希望、状態に応じて臨機応変に対応が可能でず。		ゆっくり入浴を楽しめるよう入浴剤を使用したり、音楽をかけたり、個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の状態に応じて柔軟に対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々のお薬手帳、服薬情報はいつでも確認できる状態にしてある。服薬を行う際は声だし確認、職員二名でのWチェックを行い誤薬防止に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存機能を活かし役割を持って頂く事でメリハリのある生活を送って頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族の意向を聴き外出支援に取り組んでいる。		利用者と法人の関連施設に日誌や牛乳、おやつを取りに出かけたり、菜園やホーム周辺での散歩、ザリガニ取り、ドライブなどを家族の協力も得て、本人に合わせた移動の配慮をしながら支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は困難な方がほとんどであるが、外出時は本人に支払いをして頂く機会を作っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられる状態である。希望時以外でも職員が家族へ電話した際は電話口で話す機会を設けている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境・雰囲気作りに配慮し、さりげなく季節感のある装飾品等を取り入れている。	ソファが設置され、畳の居間もあるなど、居心地の良さや心身の活力を引き出すように工夫し、利用者の作品や写真が飾られて、安心して過ごせる場となるよう取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブル・畳部屋を設置しており、入居者の方達が自由に過ごせるよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の馴染みの物(ソファ等)を配置、照明・空調・カーテン等工夫し居心地良く生活できるよう配慮している。	違和感なく安心できる使い慣れた調度品が持ち込まれ、利用者が落ち着いて過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内板や居室にネームプレート(目印)を設置し出来る限り自立した生活が送れるよう工夫している。			